



ユーザの削除

この章では、ユーザのグループを Cisco Unified Communications Manager ディレクトリから削除する方法について説明します。クエリ検索またはカスタム ファイルのいずれかを使用して、削除する既存のユーザ レコードを検索できます。

- [クエリを使用したユーザの削除, 1 ページ](#)
- [カスタム ファイルを使用したユーザの削除, 3 ページ](#)

クエリを使用したユーザの削除

削除するユーザに関するユーザ レコードを特定するためのクエリ フィルタを作成できます。



注意

削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの削除 (Delete Users)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。
[ユーザの削除 (Delete Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の[ユーザの検索 (Find User where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
- ユーザ ID (User ID)
 - 名
 - ミドル ネーム (Middle Name)
 - 姓
 - マネージャ (Manager)

- [部門名 (Department Name)]

2 番目の [ユーザの検索 (Find User where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- が次の文字列で始まる (begins with)
- が次の文字列を含む (contains)
- が次の文字列と等しい (is exactly)
- が次の文字列で終わる (ends with)
- が空である (is empty)
- が空ではない (is not empty)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2, \(1 ページ\)](#) と [ステップ 3, \(2 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。
検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。

- ユーザ ID (User ID)
- 名
- ミドル ネーム (Middle Name)
- 姓
- マネージャ (Manager)
- [部門名 (Department Name)]
- LDAP 同期ステータス

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 ユーザ レコードの削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにユーザ レコードを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でユーザ レコードを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

ステップ 8 ユーザ レコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル](#)
- [ジョブのスケジュール設定の管理](#)
- [ユーザの更新関連のトピック](#)

カスタム ファイルを使用したユーザの削除

ユーザを特定して削除するには、テキスト エディタを使用して、ユーザ ID を含むカスタム ファイルを作成できます。



- (注) bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポートトランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要のあるユーザレコードの詳細を含むカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。このカスタム削除ファイルでは見出しが不要で、ユーザ ID の値を入力できます。



- 注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

はじめる前に

- 削除する各ユーザ ID が別々の行に配置されたテキスト ファイルを作成します。
- カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの削除 (Delete Users)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。
[ユーザの検索/一覧表示 - カスタムファイルの設定に基づいたユーザの削除 (Find and List Users - Delete Users Based on Custom File)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ユーザの削除 (Delete Users where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次の条件のいずれかを選択します。
- ユーザ ID (User ID)
 - 名

- ミドル ネーム (Middle Name)
- 姓
- 部署名 (Department)

ステップ 3 [カスタムファイル (Custom file where)] ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 必要な情報がクエリに含まれていることを確認するには、[検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 ユーザ レコードの削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにユーザ レコードを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でユーザ レコードを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

ステップ 7 ユーザ レコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル](#)

[ジョブのスケジュール設定の管理](#)

[ユーザの更新関連のトピック](#)

[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)